

早慶6連戦コレクション

1. 長尾 三郎 神宮の森の伝説 六〇年秋早慶6連戦 平成4年
[表紙のみ]
2. 川崎 鉄雄 我が心のふるさと 神宮の杜 平成11年
[表紙のみ 小学校の同級生 山崎 紘之亮さんが紹介して下さいましたものです]
3. 野島 斌 神宮ネット裏に我が人生 日経 平成20年
4. 小林 康昭 昭和35年秋の神宮外苑 2016/10/15
[小林さんは早稲田大学(昭和38年)→大成建設→足利工業大学・教授→全国
土木施工管理技士会連合会・会長→早稲田大学・招聘研究員。 FIT (慶應
理工学部サッカー部 OB 会の金井勇司さんが紹介して下さいましたものです。]
5. 嶋田 誠次郎 渡海昇二君と慶早六連戦 三田評論 2016/12
6. 慶應義塾体育会野球部 2017.1.14 前田祐吉元監督追悼試合
7. 2020/01/15 高知新聞 前田祐吉氏 野球の殿堂入り
8. 早慶6連戦から60年 564球を投げたエースのその後 朝日新聞 安藤嘉浩

神宮の森の伝説

六〇年秋
早慶六連戦

長尾

三郎

Nagao Saburo

かくして伝説は生まれた

これは単なる野球の神話ではない。安保闘争に挫折した青春、優勝を賭けて戦うフェアプレー精神、高度経済成長へ向かう社会を描きながら、六〇年代とは何だったのかを改めて問うた書だ

文藝春秋刊 定価1500円(本体1456円)

我が心のふるさと

神宮の杜

川崎鉄雄



早慶六連戦をはじめ、
数々の名勝負、名シーンが
走馬灯のように目に浮かんできます。

慶応義塾大学野球部前監督
前田祐吉

定価： 本体1500円 + 税

文

神宮球場ネット裏、十三列五十番あたり。いつもの席に仲間と腰をかけ、球審の右手が拳がるのを息をのんで待つ。プレーボール直前の空気は半世紀以上通評でも特別だ。母校の上評判が芳しくないときでも、絶対に勝つぞと胸が高鳴る。

昭和二十七年（一九五一年）私慶応普通部（中学部）に入学し、すぐ東京六大学野球にのめり込んだ。以来、春秋のシ

ーズンは神宮球場に入り浸り、慶応戦を中心にほとんどの試合を観戦している。今春のリーグ戦を前にして、一人の「大大学野球狂」が見た神宮の戦後を語ってみた。

級友に誘われて

わたしが開眼した年は、六大学野球が神宮に
戻ってきた年でもあつ
た。戦後の占領期、神宮
が米軍に接収されたた
め、後樂園球場などを転
々としていたの。普通
部に入学早々、慶応幼稚

友に誘われ、
て神宮を訪
れた、
どの大学
との試合だ
ったか忘れ
たが、熱の
こもったプ



1960年秋の早慶戦史上に残る名勝負が原点となった(慶應義塾提供)

神宮ネット裏に我が人生

◇東京の大学野球観戦、学生気分で半世紀◇

レーと観客の多きにいつ
 ペンで魅了られた当帖
 の少年が好きなスポーツ
 むいえばま草野球と相
 撲。プロ野球火気はまだ
 今ほどでなく、あこがれ
 は東京六大学だった
 一番のお祭りは今も昔
 も早慶戦。最も強烈だっ
 たのは大学三年生だった

六〇年秋、優勝をかけた早稲田大との六連戦の死闘だ。慶應有利の前評判だったが一勝二敗で勝ち点を落として決定戦に持ち込まれ、二引き分けのあとで一对三のスコアで敗れ涙をのんだ。

慶応はセンバツ準優勝投手清沢忠彦ら四人の王

しは球場ちかくの信濃町にある友人の下宿に泊まり込み、あるときは神宮の森で野宿もした。六日で延三十八万人がスタンドに足を運んだ。今の六大学野球からみれば、想像しがたいだろう。

○ ○ ○
ズンぶりに優勝

昔と今では応援風景もずいぶん違う。昭和三十年代、内外野の学生席は制服制帽の弟子が上着を脱いで白シャツ姿になり、慶應の「K」の人文字を黒地に浮き上がらせ

野島 斌

イスを擁して決戦に臨んだが、早稲田の名アンダーロー、安藤元博の超人的連投で、結局一勝しかできなかつた。このときの悔しさをバネにして、わたしは今でも神宮に通っている。



る。野球の応援にチアガールが現れたのはあの六連戦の慶応が最初。昭和五十年代以降は女性の観客も増え、一気にスタン

品応援団の幹事に

ドが華やいだ。一九六二年に大学を卒業し、就職した。証券会社で営業部門、スタッフ部門と様々な分野で働いたが、勤務地は幸い東京で休日には神宮に入り浸っていた。昔は午前勤務だった土曜日も、終業の合図とともに急いで神宮に向かえば第一試合の途中から観戦できた。八五年秋、二十六シーズンぶりに慶応が優勝を果たした瞬間を忘れられない。当時は債券部門の部長で週末は国内市場が休みだったから、熱心に通った。最終戦で早稲田を下し、堂々の全勝優勝。胸上げのしかたを忘れたのか、最後に監督が裏返つてしまふハプニングがあったが、大喜びする選手たちを見てこちらも涙が止まらなかった。

役員になって週末のつき合いが増えても、秘書に頼んで一日は暇を作ってもらい、ネット裏にかけつけた。わたしにとつて神宮は単なる仕事の気晴らしではない。学生のプレーを我が事のように見つめ、一緒に喜び悔しがる。卒業はしたけれど、自分は「社会人学生」だ

という気持ちで一緒に走ってきた。

慶応では八一年に三度目の最下位に甘んじたあと、ネット裏の〇四七人が応援団「神宮ネット裏三田会」を作った。わたしは八四年に入会し、今は幹事を務めている。

会ではスタンドでの応援に加え、現役選手の進路相談などにも乗っている。春のシーズン前は、恒例のすき焼き激励会だ。二十歳前後の若者たちと同じ鍋をついていると、彼らの野球にける情熱が塊となつて伝わってくる。どちらが励まされているか、分からないくらいだ。

会員数は約百人だが、高齢化が顕著になってきた。他の大学でも応援席の平均年齢は上がっている。若い人にも六大学野球の魅力を知ってほしい。早稲田の斎藤佑樹投手の人氣が、いいきっかけになってくれるとよい。

今年の春季リーグ開幕は四月十二日。さわやかな青空の下、グラウンドに響く球審の声が待ち遠しい。さあ、今年も神宮に行こう。プレーボール！（のじま・たけし）元大和証券常務

という気持ちで一緒に走ってきた。

この年の秋の早慶六連戦は、忘れられない。早慶戦を前に、一位 慶大 8 勝 2 敗 勝ち点 4、二位 早大 7 勝 3 敗 勝ち点 3。ほかの 4 校は勝ち点 3 以下。優勝の可能性は早慶両校に絞られていた。早慶戦で慶大が勝ち点を取れば慶大が優勝、早大が連勝すれば早大が優勝、早大が 2 勝 1 敗なら早慶両校が勝率と勝ち点で並んで、優勝決定戦に持ち込まれる。早大は、慶大よりも厳しい条件になっていた。下馬評では、慶大有利とはやされた。予定された 1 回戦の 11 月 5 日は雨。翌 6 日に順延された。

* * *

1 回戦 11 月 6 日(日) 観客は 6 万 5 千人。学生内野席の学内前売券の割当てに外れたので、学生外野席で応援する。先攻は早大。早大 2-1 慶大。(早大)安藤-野村、(慶大)清沢・角谷・丹羽-大橋。先勝の早大は、明日勝てば優勝。慶大は後がない。

2 回戦 11 月 7 日(月) 今日も、学生外野席からの応援だ。先攻は慶大。優勝がかかる早大は、金沢が登板。3 番村瀬と 5 番石黒を入れ替えた。慶大 4-1 早大。(慶大)三浦・角谷-大橋、(早大)金沢-野村。早大は、明日勝たないと優勝の芽はない。

3 回戦 11 月 8 日(火) 学生内野席は当日売りとなる。早目に球場へ。開門の 1 時間前に着いたが、既に長蛇の列が出来ていた。午後 1 時半、試合開始。先攻は早大。9 回に徳武本塁突入を巡って両校の選手がもめる。その裏の回、3 塁の守備に着いた徳武を非難して、興奮した慶大応援席からものが投げ込まれた。慶大の前田監督が 3 塁コーチボックスに立って、応援席を鎮めた。安藤は慶大を 5 安打完封。早大 3-0 慶大。(早大)安藤-野村、(慶大)清沢・丹羽-大橋。両校が、9 勝 4 敗 勝ち点 4。優勝の行方は、明日の決定戦に持ち込まれた。試合後、場外に出てすぐに、入場券売り場の前にできた徹夜組の列に加わった。

* * *

優勝決定戦第 1 戦 11 月 9 日(水) 曇天の朝は寒かった。学生内野席中段に席をとる。早大は安

藤の連投。先攻は早大。後攻の慶大が2回に3塁打と犠打で先制点。以後、両軍はゼロ。早大は角谷のカーブを打てない。0-1で9回表。早大の敗色が濃くなった。伊田が三塁ゴロで1死。鈴木恵夫が代打に立った。角谷が、外角低めに投げたカーブの初球を、鈴木は振り切った。中堅渡海、右翼小島が打球を追う。大歓声のなか、鈴木は1塁、2塁を駆け抜け、3塁上に立った。早大、起死回生の3塁打。鈴木の前走に俊足前田。石黒が打席に入った。石黒の一打に期待して、熱狂した一塁側は校歌をはりあげる。角谷は石黒を2-1と追い込んだ。石黒は顔面蒼白だ。石井監督が出てきてタイムをかけた。石黒が近寄る。監督が声をかけた。石黒がうなずく。タイムが解けた。角谷が、はずし気味に外角に投じたカーブを、石黒は泳ぐように手打ちで流し打った。小飛球となった打球は一塁手の背後に落ちた。石黒、執念のヒット。前田がホームを踏んだ。この後、両投手の投げ合いが続き、11回で日没引き分けになった。早大1-1慶大。(早大)安藤-野村、(慶大)角谷-大橋・田中。連投の安藤は二日で218球。決定戦の再試合は翌々日となった。再試合前日の10日、バイトを終えて、球場に向かった。そして、入場券売り場の前に並ぶ。1000人を超す学生が徹夜の列を作った。ラーメン屋が屋台を引いてきた。新聞社のカメラがフラッシュを焚く。夜更けに、警官が巡視した。

* * *

第2戦 11月11日(金) 快晴だ。前から10列目位の席に座る。安藤の3連投に、どよめきが起きた。試合開始前から、球場内は興奮状態だった。先攻は早大。両校ともに3塁まで走者を進めるが、決定打が出ない。ともに無得点で、延長11回を迎えた。暮色が迫ってきた。風が冷たい。11回表、早大0点。その裏、慶大は安藤続が四球、榎本が右前安打。俊足の安藤続が好走して、無死走者1塁3塁。三塁側は総立ちになった。小島は敬遠の四球、無死満塁。打者は4番、主将の渡海。石井監督が出てきた。右翼の鈴木と左翼の伊田が入れ替わった。渡海は左翼に引っ張るタイプ。監督は、左翼に飛ぶ打球に鈴木の前足を賭けたわけだ。マウンドに集まる早大内野陣は、顔をひきつけている。渡海が3塁上の安藤続に声をかける。渡海は投手に向けた左足を後ろに引いて、投球を待った。安藤は外角高めにストレートを投じた。渡海は、左足を前に踏み出して打った。渡海は

明らかに右翼を狙っていた。打球は右翼に飛んだ。伊田が前進する。伊田は弱肩。一塁側に悲鳴が、三塁側に歓声が起きた。3 人の走者はタッチアップ。前進して伊田が捕った。視野の左隅で、3 塁から安藤統が走り出した。大音響の三塁側。生還すれば慶大が優勝だ。伊田が投げた。2 塁手の村瀬が中継に入った。伊田が投じた球は、村瀬の頭上を越えて、野村に返球された。野村は本塁から 2m ほど 3 塁側の線上で構えた。返球を野村は胸元で受けた。走者安藤統が外側から、捕手野村の背後を回り込む。野村は滑り込んできた安藤統にかぶさった。瞬間、耳を聳する大音声がピタッ、と止まった。その静寂の中、主審の手が挙がった。アウト。一塁側で大歓声が爆発した。「強肩」伊田は一世一代の大仕事をしたのだ。早大 0-0 慶大、(早大)安藤-野村、(慶大)角谷・清沢-大橋。日没で決定戦再試合になった。今夜も徹夜だ。外苑の空き地で焚火を囲む連中に、警官が何か注意している。

* * *

第 3 戦 11 月 12 日(土) 今日も快晴。開門は次第に早まって、午前 8 時半に。入り口で日の丸を渡される。種切れの応援グッズの代用品だ。最前列から 3 列目に座る。今日も安藤が連投。球場全体がどよめく。先攻は早大。慶大応援席に、応援史に残る大事件が起きた。スタンド最前列の指揮台に上がった少女一人。純白のセーターとミニスカート。胸に三色の慶応カラーのマーク。バトン・トワラー第一号の誕生だ。回が進んで慶大の敗色が濃くなった。飛球に倒れた渡海が、一塁側スタンドの前を虚ろな表情で、慶大ダッグアウトへ走り去った。9 回裏、慶大は 2 死。安藤が投げ、福岡が打った。2 塁ゴロを村瀬が捕って、1 塁に放った。ウィニング・ボールを好田が受けた。早大 3-1 慶大 (早大)安藤-野村、(慶大)角谷・清沢・三浦・丹羽-大橋。

* * *

早慶 6 連戦の全観客数は約 39 万人。こんなに高揚した早慶戦人気は、もう起きないだろう。ちなみにこの年、プロ野球の日本シリーズを制した大洋ホエールズの 1 シーズン全観客数が約 57 万人だった。早大の勝因は安藤の超人的な健闘。6 戦までもつれた原因は、主戦金沢、4 番徳武、3 番村瀬の不調が大きい。慶大の敗因は、安藤を打ち崩せなかったことに尽きた。

渡海昇二君と 慶早六連戦

しまだせいじろう
嶋田 誠次郎(三田倶楽部関西
地区委員支部長)

時は昭和三十五(一九六〇)年十一月十一日、秋の東京六大学リーグ戦、慶應勝点四、早大勝点四と勝点、勝率共に同じとなり、優勝決定戦となった。その第一戦(四回戦)は引き分けとなり第五戦、十回を終了し二対一の同点。十一回表、早大の攻撃も〇に抑え、十一回の裏、慶應の攻撃。一番安藤統夫君が四球で出塁、二番榎本博明君ライト前へのヒットエンドランで無死一、三塁。三番小島郁夫君四球で無死満塁。一点とればサヨナラ優勝という場面で登場したのは、慶應の誇る四番セネタ

とかいしようじ

ーキャプテン渡海昇二君だった。早大は右打者の渡海君の引張りレフトフライに備えて、弱肩の伊田君を右翼へ、強肩の鈴木君を左翼へと交替した。早大の投手安藤君は捕手の野村君のサインに一度二度首を振って、第一球を投げた。渡海打った。やや近めの球はフラフラと右翼手伊田君の前へ飛んだ。安藤君はタッチアップの構え。当然走る振りをして、ハーフで止まるはずであったが、そのまま本塁へ突入した。

伊田君のバックホームはワンバウンドして野村捕手の胸の前へ絶好球がミットの中へスッポリと入り、そのまま頭から滑り込んでくる安藤君の左肩へタッチしたように見えた。安藤君の左手が早いのか、野村君のタッチがホームベースの前であったのか微妙なタイミングであった。一瞬の静寂の後、宇野球審の右手が上がり、アウトの宣告。慶應応援席にため息が漏れた。次打者田中勝芳君はショートゴロで無得点となり、日没引き分け。翌日十一月十二日は3対1で負け、慶應の優勝の夢は破れたのだった。

渡海君は昭和三十二年兵庫県の名門芦屋高校から慶大商学部第一期生として入学。高校時代は野球はもちろんのこと、夏の大会終了後はラグビー部へ助っ人として参加、快速ウイングで活躍した。花園には出場できなかったが、ラグビーとしても優秀な選手であった。肉体的には天性の素質に恵まれ、スラリとバランスのとれた体躯。俊足で柔らかい筋肉と関節、特に手首が柔らかく瞬発力があるために、打球に伸びがあった。

昭和三十四年秋、主将に選ばれた彼の談話から、「稲葉監督から、前田監督にバトンタッチした年に主将の大役を仰せつかった。私の年代はみな仲が良く、あれこれ指示しなくても自分の立場をわきまえ自発的に動いており、下級生だった安藤君、清沢君など、持

ち場の仕事をこなし目立っていた。その意味では恵まれた主将であった」(慶應義塾野球部史より)

私が彼と約束したのは、今年優勝しよう。私は選手兼新人監督(主に下級生を指導)で、一、二年生の育成には努力するが、三、四年生レギュラーにも厳しい練習を課す。ということだった。彼は是非そうしようとして賛成してくれた。早速、夕食後の午後八時からの二百回のバットの素振りの実施。その後は外出はOKとした。その結果三、四年生の正選手の進歩は目ざましいものだった。彼も四年生の時は野球に懸命に打ち込んだのは事実であった。

彼は卒業と同時に読売巨人軍へ入団した。入団当初はよく活躍していたが、趣味のマージャンをよくしていたので、夜の素振りの時間はあまりなかった。たのではないかと思われる。彼も王選手、長嶋選手のように努力すれば、名球界入りも夢ではなかったかもしれない。

平成二十八年六月三十日、彼はこの世に別れを告げたが、彼の神宮に於けるめざましい活躍は目に焼き付いている。彼の遺言により、妻顕子様は高野山へ彼の俗名渡海昇二のまま十二月に納骨を行う予定である。

顕子夫人の希望があり、偲ぶ会を実施した。その際には蹴球部旧姓李君、芦屋高校の野球部後輩西岡浩史君には大変お世話になった。



慶應義塾体育会
野球部 / Keio
University
Baseball Club
@keiobbcc

- ホーム
- ページ情報
- 写真
- いいね！
- イベント
- 動画
- 投稿

ページを作成



「いいね！」済み

フォロー中

シェア

その他

メッセージを送る

アルバム 2017.1.14 前田祐...

2017.1.14 前田祐吉元監督追悼試合

写真12件 · Updated 約1時間前

▼昨日弊社グラウンドにて、2016年1月7日に逝去された前田祐吉元監督の追悼試合が行われました。 <前田祐吉氏略歴> 1930年9月22生まれ。高知県出身。 城東中(現高知追手前高)ではエースとして46年夏、47年春の甲子園に出場。 49年に慶大入学するとリーグ優勝を3度経験。 社会人野球を経て1960年に監督に就任し同年秋には早慶6連戦を指揮。65年に退任するまでに3度リーグ優勝を果たした。 82年に再び監督に就いてから93年に退くまでには5度リーグ優勝。85年秋には57年ぶりの無敗優勝を達成した。 その後は日本アマチュア野球連盟（現・全日本野球協会）の選手強化対策委員長を務め、また、アジア野球連盟事務局長として日本野球の国際化に貢献。 2016年1月7日、85歳で逝去。



いいね！

コメントする

シェアする

55人



コメントする...

- 西脇 隆 1日
- 眞壁 修 1時間
- 鈴木 雅史 2時間
- 田中 政則 6時間
- 山口 洋 1日
- Nobu lino 4時間
- 木村 桂一 4時間
- 張 寿山 8時間
- Keiichi Shirakashi
- 若山 邦紘 2時間
- 佐藤 峻介 1時間
- 都築 寛之 1時間
- 山本 あずさ 20分
- Yasutaka Mori 9時間
- Yoshiyuki Noguchi 22分
- 大西 恭二 1日
- 愛野幸陽 5時間
- 池尾博文
- Hanako Saito
- 伊藤 大志 14時間
- 岡村 晶 18時間
- 倉石 英一 3時間
- 大西 英行 5時間
- 三宅勇次 1時間
- 大隈 明子 2時間
- 皆藤順二 1日
- 上山 卓真 15分

故・前田祐吉氏が高知県出身で初の野球殿堂入り 慶大監督、アマ発展に尽力



高知県出身で初の野球殿堂入りを果たした故前田祐吉氏
(2015年3月、神奈川県川崎市の自宅)

野球殿堂博物館は 14 日、今年の殿堂入りのメンバーを発表した。アマチュア球界などが対象の特別表彰で、旧制城東中学校（現追手前高校）で高知県勢として初めて全国中等学校優勝野球大会（現全国高校野球選手権）に出場し、後に慶応大学野球部監督を務めた故前田祐吉氏が選出された。高知県出身者の殿堂入りは初めて。

前田氏は城東中でエースとして活躍。1946 年の全国中学大会四国予選決勝で、高松中学を 7－0 の無安打無得点に抑え、高知県初の全国大会出場を果たした。翌 1947 年の全国選抜大会では準決勝進出の原動力となるなど、高知県高校野球の草分け的存在だった。

東京六大学リーグの慶大、社会人野球を経て、1960 年に慶大監督に就任。2 度の監督生活（計 18 年間）で 8 度、リーグ

優勝に導いた。

特筆されるのは、1960 年秋のリーグ戦で早稲田大と演じた激しい優勝争い。両チームは同率首位で並び、優勝決定戦は 6 戦目までもつれた。慶大は敗れたものの、熱戦は「早慶 6 連戦」として後世に語り継がれている。当時の早大監督、故石井連蔵氏も今回の特別表彰で殿堂入りした。

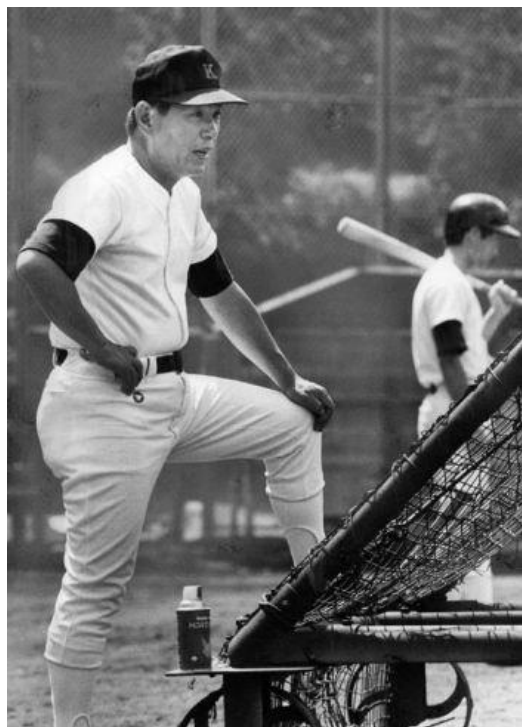
日米大学野球では、全日本選抜監督として指揮も執るなど大学球界をリード。大学以外でも、1996 年のアトランタ五輪時、全日本アマチュア野球連盟の選手強化対策委員長を務めたほか、アジア野球連盟事務局長なども歴任し、国内外のアマチュア野球の発展に尽力。2016 年 1 月に 85 歳で死去した。

前田、石井両氏のほか、競技者表彰のエキスパート表彰として、阪神、西武で通算 474 本塁打を放った田淵幸一氏（73）が選ばれた。

“前田野球”進取の気概 殿堂入り 自主性尊重 米遠征も

高知県出身で初めて、野球殿堂入りした故前田祐吉さん。旧制城東中（現追手前高校）のエースとして、高知県初の全国大会出場を果たし、慶応大学でも監督として数々の名勝負を繰り広げた。戦後発展を遂げた本県野球界のパイオニアであり、アマチュア球界の中心人物でもあった前田さんは、常に野球へ深い愛情を注いだ人生だった。

1945 年 8 月、終戦直後。当時 14 歳の前田さんの心は躍った。「言いようのない空虚な気持ちの底に、ただ一つ明るいものの兆しがあった。それは『これで野球ができるようになるかもしれない』というかすかな期待であった」（前田さん著「野球と私」より）。投手として白球を握った前田さんはカーブを習得。野球ができる喜びを原動力に、県予選、四国予選を突破し、全国大会出場を果た



した。

東京六大学リーグの慶大でも活躍。卒業後、29歳で監督を任された。就任1年目、1960年の秋季リーグは、早慶戦が優勝を決める戦いになった。3回戦で勝ち点を落とした慶大は、勝ち点と勝率が早大と並んだ。4、5試合目は勝機はあったものの、いずれも日没引き分け。6試合目に1―3で敗れ、熱戦に終止符が打たれた。

神宮球場には連日、6万人の観客が詰めかけ、テレビも各局が生放送。早大の故石井連蔵監督も28歳と若く、「青年監督対決」としても注目された。サヨナラ勝ちの決定機を逃すなど「早慶6連戦」は悔しい結果になったが、前田さんは「責任は監督一人にあることは言うまでもない」（「野球と私」）と選手を責めることはなかった。

常に進取の気概にあふれていた。最初の監督時代にはハワイ遠征を実現。2度目の監督時代にも1983年から米国本土に遠征し、投手陣に現地コーチからツーシームボールを学ばせるなど、時代を先取りしていた。

前田さんの次男で、慶大野球部員だった大介さんは「天才的なひらめきやカリスマ性はなかったが、独創的な視点で選手の成長を促す指導力があつたと思う」と笑顔を見せた。

指導の基本は、選手の自主性を重んじる「エンジョイ・ベースボール」。前田さんが2度目の監督時に主将だった現JX-ENEOSの大久保秀昭監督は「当時当たり前のようにあつた『監督に絶対服従』の人ではなかった。見ていて面白いと思える野球を、との発想があり、野球が注目されるためには何をするか、と考える人だった」と回顧した。

慶大監督を退いた後、1993年からは全日本チームにも関わった。日本代表の海外遠征で、何度か一緒になった高知高校出身の十河章浩さん（現日本生命監督）は「遠征先では『宿舍にとどまるのではなく、外に出て見聞を広めるように』と、選手を束縛しない考え方で自分たちには新鮮でした」と懐かしがった。

1997年にはアジア野球連盟の事務局長に就任し、野球が盛んではない国々への普及にも励んだ。インドネシアやタイなどで大会運営に携わり、モンゴルではコーチ役も買って出た。

「私に残された時間は決して長くはないと思うが、お世話になった野球界のため、少しでもお役に立ちたい」（「野球と私」）。2010年には10回目を迎えた追手前、小津、高知西高校の県立3校OB対抗戦の始球式に出席。故郷とともに、世界の球界に目を向けたレジェンドだった。

（吉川博之、谷川剛章）

写真＝2度目の監督時代、打撃練習を見守る前田祐吉さん（1983年、慶大日吉グラウンド）

前田祐吉（まえだ・ゆうきち）氏の略歴

旧制城東中学校（現追手前高校）時代の1946年、高知県勢として初めて、現在の全国高校野球選手権にエースとして出場。1947年の全国選抜大会では準決勝に進出した。慶大在学中は投手、外野手として活躍し、東京六大学リーグで3度優勝。社会人野球の日本麦酒（現サッポロビール）では選手で4度、監督で1度、都市対抗野球に出場。1960～65年、1982～93年の2度、慶大野球部監督を務め、8度リーグを制した。全日本大学選手権では1963、1987年に日本一。大学野球のみならず、国内外でアマ野球の発展に尽力した。2009年、「高知県スポーツの殿堂」入り。2016年1月7日、85歳で死去。高知市出身。

[ログイン前の続きから読む](#)

朝日新聞デジタル > 記事

早慶6連戦から60年 564球を投げたエースのその後

会員記事

2020年11月6日 10時00分

シェア

ツイート
[list](#)ブックマーク
0

スクラップ

メール

印刷



早慶6連戦で5試合を完投した早大の安藤元博

東京六大学野球 の秋季リーグは7、8日、優勝をかけた 早慶戦 が開催される。1960年秋にあった伝説の「早慶6連戦」から、ちょうど60年。「60年安保」で揺れ、東京五輪 を4年後に控えた日本で、どんなドラマが生まれたのか。95年4月に朝日新聞紙上で安藤嘉浩（現・編集委員）が連載した記事をリニューアルしてお届けします。（敬称略）



60年秋、ひとつのドラマが 神宮球場 で生まれた。東京六大学野球 の優勝をかけた「早慶6連戦」。「何が私を連日、マウンドに向かわせたのかは分からない。『負けてたまるか』。ただ、それだけだった」。1週間で5試合を投げ抜いた安藤元博

は、35年がたった95年にそう語っていた――。

「伝説の投手」安藤には当時、「ニュース屋」という愛称があった。自分の部屋でいつもラジオを聞き、新聞をくまなく読んでいたからだという。

11月6日、東京・戸塚にある早大野球部安部寮（現在は 西東京市 東伏見）。午前6時過ぎに目覚めた安藤は、いつものように1階の応接間で朝刊に目を通した。この日から、自分が歴史に残る快投を演じることになるとは、もちろん、思いもしなかった。

1面には、大見出しが躍っていた。「総選挙の立候補締め切る」。左下には「安保闘争 などで対立」。時代は揺れていた。

この年1月、岸信介 内閣が調印した 日米安保条約 改定をめぐり、日ごとに反対運動が激化した。6月15日には、全学連 主流派が国会に突入し、女子東大生が死亡。学生や労組員などが連日国会を取り巻き、18日には33万人に膨れ上がった。

混乱の中、19日に新安保条約は自然承認された。それでも、運動の余震は続いていた。

早大の構内にも「安保反対」の立て看板が並び、授業はたびたび中止になった。

松井盈と西川昌衛はいつも、看板に埋もれながら新聞を売っていた。2人は前年、運動部の活躍を学生に伝えるために「早稲田スポーツ」という新聞を創刊。「イデオロギーの問題にしてもスポーツにしても、学内には自由な雰囲気があふれていた」。そう振り返

注目の連載記事

もっと見る

いちからわかる！
米大統領選の郵便投票、開票が遅れているね



耕論

「産めよ増やせよ」の庄 赤川学さん、杉田菜穂さん、柳沢伯夫さん



PR 注目情報

「わくわく、わいわい」を大切にする

生徒の心を育てる武蔵の楽しい学び

進む少子化との向き合い方

個々が人生をデザインできる社会に

る西川は、野球部を担当していた。東京六大学野球は当時、日本スポーツ界のまさに「華」だった。

この年の秋季リーグは第7週を終え、慶大が8勝2敗、勝ち点4で首位。早大が7勝3敗、勝ち点3で追い、最後の早慶戦に優勝をかけることになった。慶大が勝ち点をあげれば完全優勝。早大は連勝すれば逆転優勝、2勝1敗なら優勝決定戦になる。

天下分け目の決戦とあって、初日から6万5千人をのみ込んだ 神宮球場 は、試合開始前から異様な雰囲気包まれた。

午後1時32分、宇野秀幸球審の右手が高々と上がって、「早慶6連戦」が始まった。

慶大監督の前田祐吉は1回戦のマウンドに、4人いる3年生投手の中から左腕・清沢忠彦を送った。

清沢は岐阜商高時代に4回、甲子園に出場。2年生だった56年は春、夏とも準優勝投手になっている。夏の2回戦では早稲田実 高の1年生投手・王貞治に投げ勝った。その時、早稲田実の4番だった徳武定之が、今度は早大の主将を務めている。

岐阜商で清沢のチームメートだった村瀬栄治と所正美も、早大の先発メンバーに名を連ねる。その一方、57年夏の2回戦で清沢に完封負けした土浦一高の安藤統夫は慶大にいる。

清沢が言う。「プロからも誘われたが、六大学に進む道しか考えられなかった」。清沢が入学した58年、長嶋茂雄が立大から巨人に入団。プロ野球は国民の一大娯楽への道を歩み始めた。それでも、日本野球界の「華」は、まだ六大学だった。

----- ↓ここから続き -----

早慶戦が初めて行われたのは1903（明治36）年11月21日。25（大正14）年秋には六大学リーグが結成された。戦後も、プロより早く球音を復活させる。45年11月18日、神宮球場の全早慶戦。「試合が終わっても、4万5千人の観衆がなかなか帰ろうとしない。薄暗い球場に、たばこの火が、まるでホテルのようにともっていた」。早大のマネジャーだった相田暢一は言う。

その後も六大学野球はプロ野球をしのぐ人気を集め、昭和30年前後に全盛期を迎える。清沢をはじめ 甲子園 球児の大半は神宮での晴れ姿を夢見ていた。

早大の先発・安藤も 坂出商 高時代の57年夏に 甲子園 に出場。北四国大会香川予選から 甲子園 2回戦まで59回連続無失点という快記録を打ち立てている。静岡国体で対戦したこともある清沢と安藤が、今度は六大学の優勝をかけて神宮で投げ合う。

五回に突然、清沢の制球が乱れる。2死一塁。伊田保生に3ボールとしたところで、前田監督は角谷隆を投入した。だが、角谷は結局、伊田を歩かせ、末次義久に二塁打を打たれる。

早大は七回にも1点を加点。安藤が慶大の反撃を1点にしのぎ、優勝に逆王手をかけた。

安藤はこの試合、9回を完投し、104球を投げた。

▽1回戦（11月6日）

早大000010100=2

慶大000000001=1

【早】安藤【慶】清沢、角谷、丹羽

翌7日の2回戦は慶大が4―1で雪辱した。しかし、早大も8日の3回戦で安藤が慶大を完封。両校が9勝4敗、勝ち点4で並び、21年ぶりに早慶による優勝決定戦を9日に行うことになった。

哀川翔が専門ドクターに聞いた！

アルコールが原因の慢性すい炎とは？

ネスレの栄養食 抽選でプレゼント！

アイソカルゼリー ハイカロリー

第2話 岸谷五郎のショートストーリー

二人の距離近づく、MINI CLUBMANの時間

マウス操作だけでアプリ開発？

スマホアプリDIYで業務効率化のすすめ

ニッポンにはグランドセイコーがある

時代とともに進化するクオーツ

デンマーク流デジタルとの付き合い方

社会全体で推進する仕組みとは？

「みらいE-usプロジェクト」とは？

顧客さえも驚いた、金融機関の本気

朝日新聞スポーツTwitter

@asahi_sportsさんのツイート



朝日新聞スポーツ

@asahi_sports

「天空海」なんて読む？ 故郷への思い込めた
新入幕力士 asahi.com/articles/ASNC6...

「天空海」なんて読む？ 故郷への思い...

「天空海」。何と読むかわかりますか...

asahi.com

21分



朝日新聞スポーツ

@asahi_sports

IOCバツハ会長、15日に来日 首相とコロナ対策
議論 asahi.com/articles/ASNC6...

埋め込む

[Twitterで表示](#)

朝日新聞高校野球Twitter

▽2回戦（11月7日）

慶大120000001=4

早大001000000=1

【慶】三浦、角谷【早】金沢

3回戦では、一つの「事件」が起きた。九回、早大の徳武が本塁に突入した際、猛スライディングで大橋勲捕手をふっ飛ばした。その裏、徳武が三塁の守備につくと、三塁側慶大応援席から、ミカンや空き缶が投げつけられたのだ。

六大学では33年の早慶戦で、早大応援席から投げ入れられたリングが契機で暴動が起きている。「第二のリング事件」か。球場内は騒然となった。

「ミカンが投げ込まれています。大変なことになりました」。NHKラジオの実況をしていた川原恵輔アナウンサーは、この場面を鮮明に覚えている。川原は後に、この出来事を「ミカン事件」と名付けた。

その時、慶大・前田監督が、自ら三塁コーチに立った。「怒りをそのまま攻撃につなげたい。試合が中断しては困る」。前田の機転で惨事は免れた。

慶大応援席には付属小学校の児童たちがいた。「あの子らにやじられたのが一番こたえたよ」。徳武は苦笑いで振り返る。

明けて9日。肌寒い天気にもかかわらず、神宮球場には、前日の3回戦からそのまま並ぶ学生も多かった。

地下鉄 外苑前駅 近くの喫茶店「川志満」は、この早慶戦中に木製の看板を盗まれた。「徹夜した学生がたき火に使ったんでしょうね。おやじが『また明日も試合するのか』と悲鳴をあげていたのを覚えている」と店長の川島郁夫。

当時、早慶戦の日は朝6時から店を開けた。6連戦の時は球場に入れない人が、テレビを求めて店の前に鈴なりになった。NHKと民放テレビ全4局が早慶戦の大半を生中継していた。

前年の皇太子ご成婚ブームで国内はテレビ時代に突入し、8月には受信契約数が500万台を超えた。7月に発売されたカラーテレビは17インチで42万円。大卒国家公務員の初任給は1万800円だった。

外苑前の交差点にあるてんぷらの「磯美家」は球場記者席への出前で大忙しだった。「すごい歓声がここまで聞こえたよ」と店長の高津美子。

店の前には、都電が走っていた。青山通りが東京五輪に向け現在の道幅に拡張されるのは、その後のことだ。この6連戦中、文部省に五輪準備室が設立されている。

▽3回戦（11月8日）

早大100000011=3

慶大000000000=0

【早】安藤【慶】清沢、丹羽

9日、早慶による優勝決定戦は、0―1とリードされた早大が九回に追いつき、そのまま延長十一回、日没引き分けになった。優勝決定戦が再試合に持ち込まれたのは、六大学史上初めてである。

▽優勝決定戦（11月9日）

早大00000000100=1

@asahi_koshienさんのツイート

バーチャル高校野球
@asahi_koshien

21世紀枠に大宮東を推薦へ 来春の選抜高校野球
vk.sportsbull.jp/koshien/articl...

21世紀枠に大宮東を推薦へ 来春の選抜...
来春開催予定の第93回選抜高校野球大...
vk.sportsbull.jp

35分

バーチャル高校野球
@asahi_koshien

大崎が福岡大大瀬下し、初優勝 初の甲子園へ
vk.sportsbull.jp/koshien/articl...

埋め込む

Twitterで表示

※Twitterのサービスが混み合っている時など、ツイートが表示されない場合もあります。

アクセスランキング

もっと見る

読まれています

昨日のトップ5

アツギのタイツ企画炎上「性的で怖い」 SNSに潜む罠

1人5万円公約、お金どこから？ 市長「裏技あるかも」

まだ手が届かない第1志望校 複数回入試を受けるべきか

鬼滅一丁、鬼シゲキックスも…「鬼滅」関連商品ラッシュ

言えなかった「子宮がない」 結婚4年、妻の告白に夫は

ソーシャルランキング

もっと見る

フェイスブック

はてなブックマーク

- グレタさん「落ち着け」投稿 2398
- 米大統領選 開票いつ終わる 1555
- 首相「事前調整」答弁に批判 1189

Facebook

Twitter

記者ページ

注目コンテンツ

ご案内

【&Education】

本上まなみの暮らしと子育て

様々な選択肢を自由にチョイス



【&TRAVEL】

川のワイン飲むイベント

オンライン参加者募集



慶大010000000000=1

(延長11回日没引き分け)

【早】安藤【慶】角谷

翌々日の11日。再試合 は、またも延長に入っていた。

十一回裏、慶大が無死満塁の好機を作る。10日は球場の都合で休んだが、早大の先発・安藤は6日間で4試合目の登板になる。ここまで39回を投げ、さすがに球威は落ちていた。

この場面で早大の石井連蔵監督は、肩が弱いレフトの伊田と、ライトの強肩・鈴木勝夫の守備位置を入れ替えた。慶大の三塁走者は俊足の安藤統、打者は左に引っ張ることが多い強打者・渡海昇二だった。

「安藤（元）に悔いを残させたくない」と捕手の野村徹は思った。「真っすぐでいこう」。安藤もうなずいた。「一応、サインを出すから、適当に首を振れよ」

安藤は初球から、野村の言葉に従った。「1球目から首を振るなよ」。野村は思わず、マスクの奥で苦笑いした。「いま考えると、あれで渡海に迷いが出て振り遅れたのかもしれない」

渡海は三塁走者に、「外野フライを打つから、突っ込め」と言ってあった。「これで、勝った」。打った時は思った。

伊田はライトフライが飛んできた時、「背筋が寒くなった」という。「あとは無我夢中。勢いをつけて思い切り投げた」

三塁走者の安藤統がスタートを切る。早大の選手は「もう、だめだ」と思った。ところが、伊田からの送球がノーバウンドで野村に返ってきた。タッチアウト。「奇跡の好返球」で、早大が最大のピンチをしのいだ。

「あの状況でも、まったく負ける気はしなかった。無の境地で投げた1球だった」という安藤元は続くピンチも切り抜けた。夕やみが迫る。延長十一回で、またも日没引き分けとなった。

「照明灯がなかった。それが6連戦を生んだ」。早大の監督だった石井は言う。神宮球場 は前年暮れ、照明設置の計画を発表、6連戦の時には工事を終えている予定だった。これに対し、六大学野球連盟 が「プロに球場を貸すことになる」と反発、照明設置は白紙に戻った。

神宮球場 にナイター設備が付き、プロ野球の使用が始まるのは、2年後の62年になる。

▽優勝決定戦（11月11日）

早大000000000000=0

慶大000000000000=0

(延長11回日没引き分け)

【早】安藤【慶】角谷、清沢

安藤元は再試合 がまた引き分けで終わった夜、早大野球部安部寮の近くを、ぶらぶらと歩いていた。戸山ハイツからグラウンドそばの甘泉園へ。何かを考えるわけではない。気分転換に毎晩、散歩を続けていた。

6日間で40回を投げ、投球数は464球に達していた。

【&M】 自分のことを否定せず 前向きに生きていくには	
【&w】 ジオラマ？ 本物の景色？ 本城直季、初の大規模開催	
好き好日 いじめ乗り越え、世界へ挑戦 パフォーマーちゃんへん.さん	
論座 大阪市廃止にNO！ 今日の編集長おすすめ記事	
エアースタイルマガジン セイコーウオッチ社長に訊く グローバル化、成功の理由	
T JAPAN 王妃のシャンパーニュの所以 最新ヴィンテージが発売	
GLOBE+ コロナより前から非常事態 求められるポストコロナの概念	
sippo 愛犬とのキャンプの楽しみ 一緒に過ごせば絆が強くなる	
家の耐震性が「地元」を守る？／住宅特集	
百貨店の物産展、セール情報はこちらから！	
独立を意識したら 朝デジ会員なら簡単登録！	
男の肌ケア好調、小林製薬のユニークな開発力	
CO2排出量削減のため水素エネルギーに注目	
ソニー生命、相談から契約までリモートで！	
生活のペースを見出さない便秘薬を選びたい！	
法改正により変わる、「これからの相続」とは	
あなたの企画が新聞に？「#広告しようぜ」	
これからの世界を読み解く「数学体感教室」	
MBA、夢じゃない 社会人大学院	
「環境危機時計」を見て行動のきっかけに	
新ジャンル「ゴールドスター」誕生秘話	
中小が勝つデジタル戦略とは？／無料セミナー	
日本でのペットボトルリサイクルの現状は？	
コロナ禍「オンライン接客」で売上増	
持続可能な食生活に「豆」が注目される理由	
「未来をより良くするおカネの流れ」とは？	
使い捨てプラスチックを使わないという選択を	
国公立大学を志望するならまずはここから	

中学で野球を始めた時は内野手だった。香川の 坂出商 高に進んでから、地肩の強さを買われて投手に転向。早大入学後に、横手投げから下手投げに変えた。

「走って鍛えなさい、投げて覚えなさい」。石井監督の教えはそんな感じだった。グラウンドを50周でも走ったし、連日、300球投げ込んだから、「体力だけは自信があった」。

ところが、2週間前の 明大 4回戦は1回で6失点。「投球練習はしなくていい。走れ」。石井監督に言われた時は「 早慶戦 では投げられない」と思った。

「だから、あの時の安藤は投げられる喜びでいっぱいだった」と捕手の野村は言う。

早慶による優勝決定戦が再々試合となった12日。「安藤」の名前がアナウンスされると、 神宮球場 にどよめきが起こった。

元気に投球練習をする安藤を見て、慶大の選手は何を思ったか。試合後、「なぜ安藤を打てなかったのか」と先輩に聞かれた一人がこう話したという。

「嫌いなものを毎日、食卓に出された気分です。しまいには、吐き気がしました」

早慶戦 の試合前に放たれるハトもさすがに疲れ果て、この日は風船が飛ばされた。ブラスバンド部の管楽器担当者は「口が痛い」と嘆いた。それなのに、安藤は元気に投げ続けた。

早大は、主将の徳武の3安打などで3―1とリードを奪った。徳武は前夜、石井監督から「球団を決めろ」と言われ、プロ野球の国鉄 スワローズ （現ヤクルト）入りを決意した。11球団から誘われ悩んでいた主砲が、最後に爆発した。

最終回。2死をとった安藤は、6連戦通算564球目を内角に投げ込んだ。二塁ゴロ。ついに、決着がついた。

「安藤だ、安藤だ」。石井監督を 胴上げ した後、徳武が叫んだ。「ぼくは、あまり感情を表に出さない方だけど、あの時だけは万歳していたね」。4年生を差し置いて宙に舞った3年生投手は、そう振り返る。

▽優勝決定戦（11月12日）

早大020010000=3

慶大000010000=1

【早】安藤【慶】角谷、清沢、三浦、丹羽

60年秋の早慶6連戦で5試合を投げ抜いた安藤は62年にプロ野球の東映フライヤーズ（現 日本ハム ）に入団し、いきなり13勝をあげた。だが、プロ生活はわずか4年で終える。「私にとって、プロ野球は付録のようなものだった。もう、燃え尽きていた」

90年6月2日。6連戦当時の両校OB30人ほどが、 神宮球場 のネット裏に集まった。目の前では、12年ぶりに優勝をかけた 東京六大学 春季リーグの 早慶戦 が行われていた。

その中に安藤の姿もあった。「何とも言えない気持ちだったね。昔を思い出したよ」。何人かは試合後、「夜の 早慶戦 」を行うため、渋谷に繰り出した。

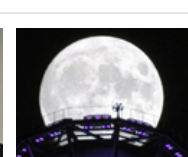
早大監督には前々年から、石井が復帰していた。安藤や野村ら6連戦当時の教え子は、何度か練習を手伝いに行った。

慶大監督にも、82年から前田が再就任していた。2人が優勝をかけて戦うのは6連戦以来となるが、またも軍配は石井・早大に上がった。

その前田は93年限りで後藤寿彦にバトンを渡し、石井も94年を最後に勇退した。後任には、佐藤清が就任。戦後50年がたち、初めて早慶両校に、戦後生まれの監督が並び立った。

運動不足を解消したい、そんなあなたへ		
文系の30代社長がITで老舗商社を変える		
シリーズ／各界の著名人に聞いた成功のコツ		
女優・田丸麻紀さんが考えるサステイナブル		
2030年の世界を君の言葉が変える！		
新田恵利さんと学ぶ福祉と介護のリアル		
医師が警告！酒好きは気をつけたい慢性すい炎		
「大学のいま」を徹底取材！「関西の大学力」		
川島小鳥が語る 仲野太賀と旅する東京		
“冬の味の金麦”とお鍋が合う理由とは？		
土井善晴さんに聞く、人生の「わたし遺産」。		
グランドセイコーの機械式腕時計が目指す精度		
オーストラリアの魅力を「おうち旅」で体験		
働き方・就活		
転職情報 朝日求人ウェブ		
動画ランキング 動画一覧		
1	2	3
	2:54	2:15
「なんてこった」4年前の衝撃…バックンが語る大統領選	「ご飯ない」検索してみた 19歳母、手元に2万円だけ	犬1で多頭飼

写真 フォトギャラリー

		
プレタポルテの新時代を築く	見上げれば空にぼっかり	写真 湾台

石井は野球部から出た功労金600万円を「選手に飯でも食わせてやってくれ」と佐藤に手渡した。

「6連戦の後、安藤は『みんなのおかげだ』と言い、ほかの連中は『安藤だから勝てた』と言った。私は『これが早稲田の野球だ』と思った。あの時の思いが、やめ方にもつながった」

早慶の主将だった徳武定祐（定之から改名）、渡海や、野村ら61年卒業組は毎年、ゴルフ会を開いている。勝敗は、早慶それぞれの「ベスト9」のスコアで決める。同期会の輪はいつからか、他の4大学にも広がった。

安藤は95年当時、建設会社に勤めていた。94年秋、体をこわして入院した時には、当時の仲間が次々と訪ねてきてくれた。「彼らとの親交は、いつまでも続くと思う。人生で、最大の財産かな」

思い出の 神宮球場 へは、しばらく行っていない。

「何か、最近は 高校野球 とプロの間で埋もれているね。同好会みたいに感じられる時もある。私たちのころは、その時、その時が、必死だったよ」

「伝説の投手」は96年6月、56歳の若さで他界した。6連戦でバッテリーを組んだ野村は悲報に接し、「彼の重い球を受けた影響で、人さし指が今でもはれているんだ」と左手をさすった。野村は2年後の98年11月、早大の監督に就任し、強い早大を復活させる。

6連戦で指揮を執った早大の石井は2015年9月、慶大の前田は16年1月にそれぞれ死去した。あれから60年がたった今年1月、2人はそろって 野球殿堂 入りを果たした。



関連ニュース

ハンカチ王子も和田も三木も V かけた早慶戦の戦績は？



早慶の「捕手対決」に注目
大阪桐蔭出身の福井と岩本



「牛タンがおいしい」4球団競合の早大・早川は楽天へ



外れ外れでも「1位とは」
ヤクルト指名の慶大・木沢



布団干し、ゆず聴いて寝る
早大・早川隆久のルーティン



「エール」復活 時代を先取り
東京六大学の応援史



こんな特集も

ロスチャイルド家の名を冠した、パロン・フィリップ社が手がける高品質のチリワイン「エスクード・ロホ」シリーズ。(アエラストイルマガジン)